

第22回 法廷だより

2017年9月19日、第22回口頭弁論期日が札幌地裁で開かれました。

雨にも関わらず
傍聴席も満員

2017年9月19日午後2時00分より札幌地裁で、第22回口頭弁論期日が開かれました。傍聴席も満席となりました。

今回の期日では、まず原告の意見陳述を行い、その後弁護団から、防潮堤・防波堤の安全性や地盤の安全性が欠けていることを述べた準備書面(24)の要旨説明を行うとともに、同準備書面を提出しました。その後、弁護団の市川弁護士と田中宏弁護士が進行に関する意見を述べました。

(準備書面は8ページ)

原告意見陳述

原告の意見陳述は、これまで長年にわたって原発問題にかかわる運動に参加してきた中村廣治さんが行いました。これまでかかわってきた運動について述べた上で、福島

事故の反省もなく再稼働へ向かう風潮に疑問を投げかけ、原発の危険性を訴えました。(意見陳述の内容は2ページ)



弁護団の口頭陳述

準備書面(24)のうち、防潮堤・防波堤の安全性についての口頭陳述は、今橋弁護士が行いました。そこでは、防潮堤や防波堤の変形の恐れが原子力規制委員会によっても指摘されていることに触れ、津波の流入などによって安全性が損なわれる恐れがあることを指摘しました。

地盤の安全性についての口頭陳述は、菅澤弁護士が行いました。液状化の危険があること、それによって原発の重要な施設から放射性物質が漏れる危険があることを含む様々な問題点も踏まえ、複合災害が起こる恐れがあるのに、被告は様々な問題点についての検討が不十分で、シビアアクシデント対策を講ずる能力がないことを指摘しました。

進行に関する意見として、市川弁護士は、被告は訴訟提起から6年も経っているのに被告は現時点で安全性を主張立証できていないということであり、裁判所は被告のこれ以上の主張立証の準備や原子力規制委員会の判断を待たず、独自に早期に判断すべきであることを述べました。続いて田中宏弁護士は、市川弁護士の意見を前提に、原子力規制委員会の審査が長引いたのは、専ら、被告の準備不足によるものであつて、被告から新たな主張立証があつても、裁判所は民事訴訟法上の「時期に後れた攻撃防御方法」として却下して、判断を延期しないよう求めました。

今後の予定等

次回期日は、12月19日(火)午後2時00分からです。(なお、次々回は3月20日(火)午後2時00分と予定されています。)

次回もたくさんの方に傍聴にお願いしたい、ともに廃炉への意志を表明していきましよう。

(文責・竹信航介)